

## ◆ 今週のコメント

- ・ 麻しんの報告が1例あり、本年の累積報告数は2例で、いずれも男性、19歳(臨床診断例、ワクチン接種歴なし)及び24歳(修飾麻しん(検査診断例)、ワクチン接種歴1回)です。推定感染地域はいずれも国内、推定感染経路はいずれも不明です。
- ・ インフルエンザの定点当たり報告数は、0.03(2例、30歳代及び40歳代)で、先週の0.13(9例)から減少しています。

## ◆ 今週のトピックス:<レジオネラ症>

今週に1例報告があり、男性、88歳、病型は肺炎型、推定感染地域は国内、推定感染経路は不明です。詳細をトピックスに掲載しています。

## ◆ 発生状況

### 全数報告の感染症

- ・ 二類:結核 2例(肺結核 2例, 肺外結核 なし, 無症状病原体保有者 なし), (喀痰塗抹陽性 1例)  
【1月以降の累積報告数 195例(肺結核 131例, 肺外結核 49例, 無症状病原体保有者 15例), (喀痰塗抹陽性 64例)】
- ・ 四類:レジオネラ症(肺炎型) 1例【1月以降の累積報告数 3例】
- ・ 五類:麻しん 1例【1月以降の累積報告数 2例】

### 定点報告の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点68, 小児科定点41, 眼科定点10, 基幹定点1)

定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ*	インフルエンザ	0.03	2
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	3.71	152
	② 水痘	1.24	51
	③ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.90	37
	④ 突発性発しん	0.71	29
	⑤ 流行性耳下腺炎	0.29	12
眼科	流行性角結膜炎	0.60	6

### 病原体情報

ありません。

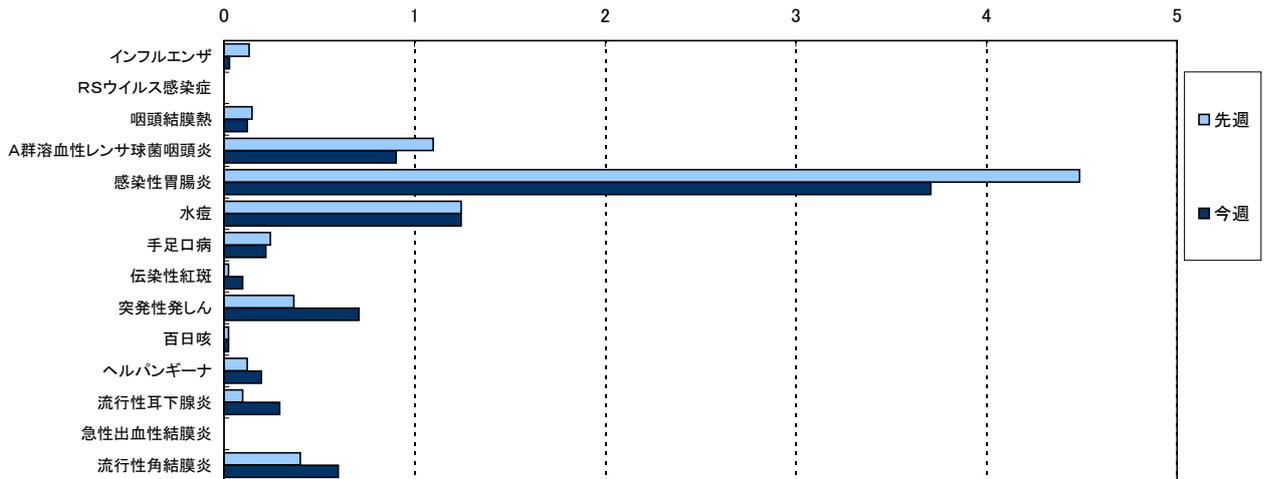
## 【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス:<レジオネラ症>

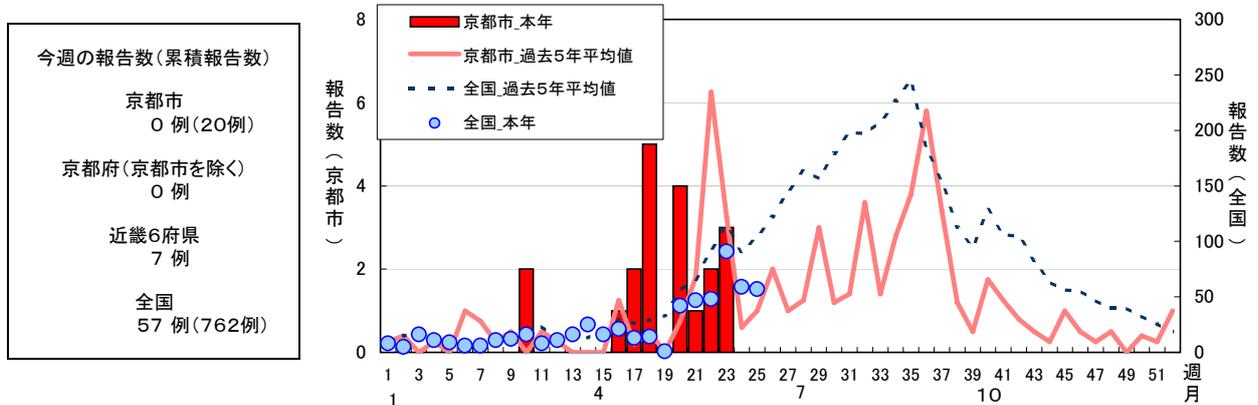
(注) 京都市のデータは、平成21年6月25日現在の報告数で、全国の還元データと若干異なる場合があります。  
また、本情報での患者数は、届出医療機関所在の保健所での集計で、患者の住所を示すものではありません。  
病原体情報は、病原体定点等から京都市衛生公害研究所へ搬入された検体から検出された病原体です。

# ◆ 発生状況の概況グラフ

## 1 今週(第25週)と先週(第24週)の定点当たり報告数の比較

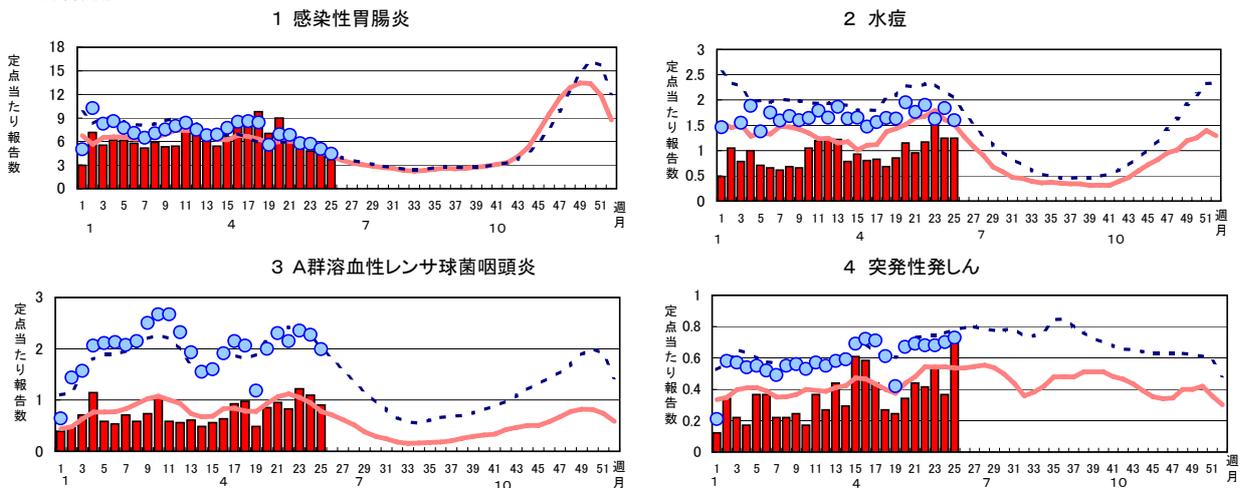


## 2 腸管出血性大腸菌感染症(三類感染症)の推移

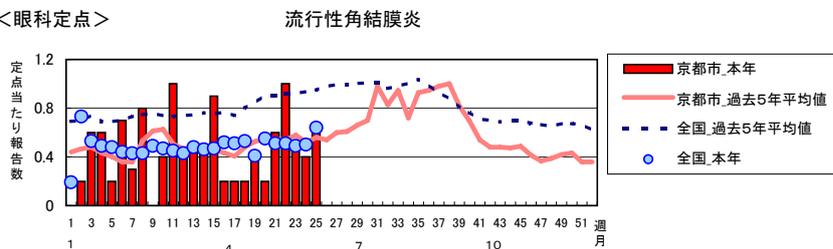


## 3 主な感染症(小児科)の定点当たり報告数の推移

<小児科定点>



<眼科定点>



## 今週(第25週)のトピックス: <レジオネラ症>

今週に1例報告があり、男性、88歳、病型は肺炎型、推定感染地域は国内、推定感染経路は不明です。累積報告数は3例で、男性2例、女性1例、病型はすべて肺炎型、推定感染地域はすべて国内、推定感染経路は水系感染1例、不明2例です。

診断年別では、本年の第25週までの累積報告数は、平成20年(13例)、平成19年(5例)に次いで多い報告数です。

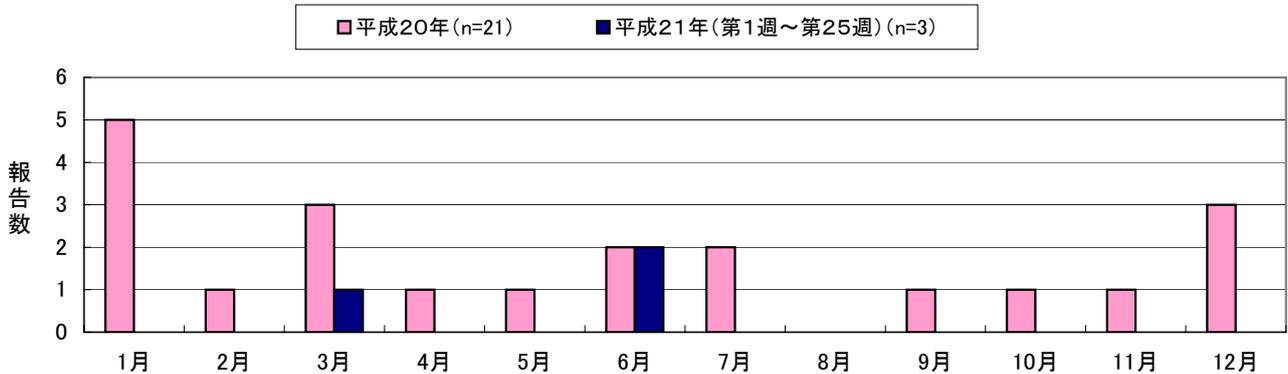
月別では、本年は3月に1例、6月に2例の報告となっていますが、昨年は8月を除くすべての月で報告があります。

年齢階級別では、本年は60歳代、70歳代及び80歳代の各1例となっていますが、昨年は30歳代、50歳代～90歳代に報告があり、特に70歳代で多くなっています。

診断年別推移

	本市		全国
	年間	第1週～第25週 までの累積	年間
平成11年4月～	0	0	56
平成12年	0	0	154
平成13年	1	1	86
平成14年	2	2	167
平成15年	3	2	146
平成16年	1	1	161
平成17年	2	2	281
平成18年	8	5	518
平成19年	21	12	667
平成20年	21	13	893
平成21年	—	3	第25週までの累積 285

平成21年及び平成20年の月別推移



平成21年及び平成20年の年齢階級別報告数

